

対談

マスメディアと スピリチュアル・ブーム

しまその すずむ
島蘭 進

わたなべ なおき
〈司会〉 渡邊直樹

みやざき てつや
宮崎哲弥



司会 宗教は、布教活動としてメディアを使ってきた歴史があります。聖書は、グーテンベルクの印刷術の発明によって普及しましたし、日本でも出版は寺院で最初に始められました。

テレビやインターネットといった新たなメディアが生まれたことで、宗教側がメディアを利用するだけでなく、メディアによって今のスピリチュアルブームのような新たな神が作り出されるようになってきたような印象もあります。

このようなメディア発のスピリチュアリズムを、新たな宗教運動としていち早く指摘された島蘭先生と、宗教にも造詣が深く、ご自身でもテレビやラジオといったメディアに多数出演され、メディアの内側を熟知している宮崎先生にご登場いただきました。

まず、一昨年来、「オーラの泉」(テレビ朝日系)をはじめとして江原啓之さんの番組が非常に人気です。宮崎さんはどのように思われますか？

■スピリチュアルトークバラエティ

かう番組についての批判はありますか？

宮崎 『オーラの泉』ではありませんが、二〇〇七年七月二八日に放送された『FNS二七時間テレビ』のコーナー「ハッピー筋斗雲」で、江原氏にデタラメな霊視をされて「自分や周囲の人々が傷つけられた」というヴォランティア活動家が、放送界の自主的機関「放送倫理・番組向上機構(BPO)」に訴えたところ、翌〇八年の一月二二日にBPOが「人間の尊厳を傷つけかねない」とする意見書をフジテレビに提出するという事態へと発展しました。

江原氏側は白らの公式サイトなどで「フジテレビ側の虚偽に騙された」と弁明し、責任転嫁に躍起になっているようです。もちろんフジの責任は免れないと思います。が、江原氏がメディアでデタラメな霊視を行った事実が消えません。

同じように事実と反する霊視を行った疑いは『オーラの泉』についても指摘されていて(「江原啓之『インチャキ霊視!? 植れいの『死んだ父親』が生きていた!』『週刊文春』〇八年一月二四号)、次第に彼の「霊能」自体に対

宮崎 テレビ朝日制作の『オーラの泉』(正式番組名は『国分太一・美輪明宏・江原啓之のオーラの泉』)は元々は二三時台の深夜番組でしたが、二〇〇七年四月の改編で土曜二〇時台に昇格しました。深夜帯に比べて視聴者数が格段に多いゴールデンタイム(一九時から二二時に掛けての時間帯)ですから、それなりのコレクトネスが必要とされて、番組全体の趣向は霊視よりもヒューマンインタレストに重きをおいたトーク番組に変わってきています。

〇七年四月後半から番組の最後に「前世」、「守護霊」は科学では証明されていない」というテロップを表示するようにになりました。どうも準キー局の大阪朝日放送など系列局からも番組の昇格、継続に強い異議が呈されているようで、現に朝日放送のワイド情報番組『ムーブ!』では盛んにスピリチュアル番組批判が取り上げられています。

こうした内部からの批判もあって、テレビ朝日が放送に当たって一定の配慮をせざるを得なくなったということでしょう。

司会 番組審議会などでは、こうした霊的なものをあつ

する懷疑が広がっているようです。

そもそも、民間放送連盟の放送基準には、第八章五四条に「現代人の良識から見て非科学的な迷信や、これに類する人相、手相、骨相、印相、家相、墓相、風水、運命・運勢鑑定、霊感、霊能等を取り上げる場合は、これを肯定的に取り扱わない」と明記されているのです。

〇七年三月には全国霊感商法対策弁護士連絡会が、『オーラの泉』に代表されるスピリチュアル番組が放送基準に抵触しているとして、日本放送協会と民放連に対し番組内容の見直しを求める要望書を提出しています。

また、同年一二月に、神奈川県警の幹部までが関わっていた霊感商法会社の問題が発覚した際にも、被害対策弁護団の紀藤正樹弁護士は「ヒーリング番組やスピリチュアル・ブームの影響で、客観的根拠がないことに対しては防衛本能がなくなつて引っかけ易くなっている」「そうでなければ、これだけの被害にならなかった。根拠のない番組は、防衛本能を阻害する」と霊感ヒーリングやスピリチュアルな現象を扱った番組の責任を追及する構えを鮮明にしています。



宮崎哲弥氏

司会 その前に頂点を極めた形の細木さんの番組は終了しましたね。

宮崎 TBSの『ズバリ言うわよ!』、フジテレビの『幸せって何だっけ〜カズカズの宝話〜』は二〇〇八年三月までの放送となりました。細木さんは「本業」に専念される意向とのこと。

私はこの人とはテレビで共演したことがあります。人物論的な興味から、占いをやらない討論コーナー限定の

ゲストとして出演したのですが、まあ、伝統的な占術師、例えば藤田小女姫などとあまり変わらない存在感でしたね。「スピリチュアル」という印象は皆無だった。

司会 とはいえ、細木さんであれば「地獄に落ちるわよ」とか、江原さんであれば「スピリチュアル」や「後ろにいらつしゃる方が」みたいなことを平然と言っていますよね。

宮崎 細木氏はメディアのなかで存在が大きくなり過ぎたと思います。関西のワイドショーなどで人生相談に乗っているぐらいが丁度よかったんじゃないでしょうか。昔は昼下がりのワイドショーには拝み屋擬き（おかしな）の占い師や霊能者が頻りに登場し、視聴者からの相談に答えるというコーナーがよくありました。

私が若い頃にみた番組では、中年女性の霊感占い師と民俗学者の小松和彦氏が「対決」する場面がありましたよ。占いの師の語気の強さに、小松氏が劣勢でしたが（笑）。

司会 東京の番組ですか？

宮崎 さあ、大阪の番組じゃなかったかな……。おそろ

く同じ霊感占い師だったと思うのですが、悪霊に祟られてお経を唱えてみたが効き目がないという視聴者に、「あたしも最初仏道を学び、お経を何千巻も読んだが、あることに気づいて仏教を捨てた」っていうんです。それは「仏教のお経には『霊』のことがひとつも書かれていない!」(笑)。それをみて、「あつ、この人は確かによく学んでいる」ととても感心した。拝み屋擬き（おかしな）でもそうそう舐めたものではないと。そこらの經典の内容を確かめたこともない「霊感坊主」や「似非スピリチュアリスト」よりはずっとマシです。

■霊的番組への規制の可能性

島園 霊的なものをかなり露骨に出すようなテレビ番組に対して、放送コードや申し合わせ等で実質的に規制するという考え方はありうろと思いませんか？

宮崎 先の民放連の訓示規定的な放送基準で十分でしょう。新たな規制は現時点では必要ないと思います。

島園 たとえばコンビニでポルノ本が売られることを規制するといった時に、では電車の吊り広告をどうするか



渡邊直樹氏

という議論もできます。宗教団体関係の吊り広告は非常に多いですよ。あれは知らず知らずのうちに影響力を行使しているわけです。個人が本屋さんに行つてその手の情報にアクセスすることは全く規制すべきではないと思うのですが、ある種の公共性のある場というのはどうでしょうか？

宮崎 宗教に関しては放送基準第七章四一条に「宗教を取り上げる際は、客観的事実を無視したり、科学を否定



島園 進氏

する内容にならないよう留意する」と規定されておりま
す。ならば日曜の早朝にやっけるキリスト教の宣教番組
はどうか。ラジオでよく聞く聖教新聞提供の時報は
どうか。という具合に次々と疑問が湧いてきます。それ
らは穏健な伝統的宗教であってカルトではないとすれば、
今度はカトリックや創価学会と、歴史の浅い新興宗教と
の決定的な差異はどこにあるのかという非常に厄介な問
題が出てくる。

宮崎 もちろんヨコのことをタテにするだけの方法じゃ
駄目だと思いますが。そもそも宗教および宗教的観念の
来歴やそれらが現に果たしている社会的役割が異なっ
ていますからね。

日本はもともと信教の自由に関する社会的合意が希薄
です。宗教の公共性という点も評価されていないし、既
存の教団が公共的な役割を担っているかも怪しい。そう
した欧米とは異なった部分を勘案しながら公的支援なり
規制なりを考えていくべきでしょうね。そこらの論点を
整理して、政策パッケージとして呈示するのが宗教学者
の喫緊の課題かとも思うのですが（笑）。

島園 まあ、そういうことですね。ですから、我々がや
っていることは非常に大事だということですね（笑）。

私としては、ある程度そういう議論をして、知識社会
がしっかり宗教に関心を持ち、ある程度宗教の良し悪し
についても議論がなされて、もう少し規制にあたるよう
なことが起って自然じゃないかと思っていました。です
から、最初に宮崎さんが紹介されたような最近のスピリ
チュアル番組批判や自主規制の動きはやや遅すぎた感が

これは一面ではボルノ規制や暴力規制の問題とも通底
していますが、私は原則としてどの場合でも、規制は謙
抑的かつ必要最小限でなければならず、規制の方法も自
主規制、流通規制であるべきと考えています。

司会 バイオレンスに関しても一緒ですか？

宮崎 表現という面で捉えるなら同じです。例えば児童
ボルノの場合、実写映像ならば制作そのものが犯罪であ
り、強い規制が必要とされるわけですが、暴力に関して
は本物のスナッフフィルムでもない限り、表現一般の問
題です。暴力シーンが視聴者の心理に与える影響の計測
は非常に曖昧で、「ゲーム有害論」と同じくらい根拠薄
弱ですから、強い規制を認容する事由にはならないと思
います。

まあ、欧米に比較的確立された基準があるので、それ
を参考にしながら、注意深く、きめ細かく対応してい
くのが上策でしょう。

島園 ボルノとかバイオレンスにおいてある種の規制が
あるとすれば、対応するような形で、宗教関係にもあり
うると言うことですよ？

あります。

■オウム事件以前と以後

島園 私の印象では、オウム事件があつてから、しば
らくはメディアの靈的な番組も静かになったという気がし
ます。そのときの反省が少なくともテレビ局レベルでは
生かされていなかったということでしょう。

宮崎 実は一九九五年以前も心靈番組、オカルト番組は
多数放送されていたのです。民俗学者の金子毅氏は
「オカルトの普及はテレビの普及と軌を一にしていた」
とさえ指摘していますが（「オカルト・ジャパン・シン
ドローーム」一柳廣孝編著『オカルトの帝国』青弓社、所収）
おそらくその通りでしょう。

したがって、オウム事件後にオカルト番組が消えたの
は、まさに一時的な「自粛」ムードの反映とも捉えられ
ます。

島園 潜在的に靈的な番組は危険をはらんでいるという
認識を多くの人が持つていて、オウム事件でそれ見たこ
ととなったと思うんですね。マスコミであおられた人